

### 1.3 クリアファイルを使うキーワード集の作り方

「はじめに」で述べた通り、本書では技術用語をA4で一枚にまとめたものをキーワードと呼ぶ。A4一枚にまとめる内容は、**1. 原理、2. 特徴(3件)、3. 問題点(3件)、4. 対策、5. 応用例、6. 今後の課題**である。この時に、特徴や問題点を**3件ピックアップしておくことが大事**である。その理由として、設問の多くに、「～について特徴や課題を3件挙げ、その一つについて詳細に述べよ」という形式が多く用いられているからである。

**A4一枚に簡潔にまとめることが重要であり、必ず図やグラフ、表を付ける。**こうして作ったA4一枚のキーワードは、クリアファイルの見開きで左側に入れる。右側はこのキーワードを説明する手書きの600字の原稿用紙を後で入れる。始めはクリアファイル1冊(20ポケット)からスタートすれば良い。キーワードが20件に達したら、次の1冊を加えて徐々に関連する技術分野毎に整理して分ければよい。20件×5分野(ファイル)で最終的に100件になる。

私が受講したスクーリングでは、キーワード集はノートを見開きにして左側に手書きで書くと良いと指導された。左側に上記の1.原理、2.特徴(3件)、3.問題点(3件)、4.対策、5.応用例、6.今後の課題を書くのである。右側を空けるのは、後で追加情報を加えることが出来るため、同時に手書きで書く練習にもなるとのことであった。私は指導された方法を行わなかった。私は字が下手で自分で書いた文字が読めないことも時々ある。手書きでまとめる自信が全く無く、パソコンの作業の記入のほうがむしろ早い。そこでいつも会社で使い慣れているパワーポイントでA4縦書きにする方法を採用した。**1. 原理、2. 特徴、3. 問題点などを初めから入れたテンプレートを作った。**自分にとって、手書きよりも効率が良く、後で追加や修正も楽である。キーワードの枚数は段々と増えていくので、増えた後に分類し直せる。手書きのノートだと順番が固定されるので(ルーズリーフなら固定されない)、パソコンで作業しクリアファイルにまとめるほうが修正もしやすい。

各キーワードの内容をもとに、手書きで600字原稿用紙にその内容を1枚問題の解答論文として記載した。これが手書きの訓練、簡潔な文書作成の訓練になる。手書きした600字原稿用紙は、クリアファイルの右側に入れるのである。こうすると、キーワードとそれをもとにした600字手書き論文が左右に並ぶ。

キーワード集を作る過程で、**①情報の収集、②A4一枚のキーワードまとめ、③600字手書き原稿用紙への記載というステップを踏む**のである。この方法は情報の収集と、それをもとに手書きでまとめる訓練になる点の特徴である。